

ヴェーダ

V E D A (ヴェーダとはサンスクリット語で“癒し”を意味します。)

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩みます。

基本方針

- ・患者さんの人権と権利の尊重
- ・がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- ・地域の医療機関、保健福祉施設との連携強化
- ・職員の働きやすい職場づくり

第7回 緩和医療懇話会

12月1日(木)午後7時からホテルサンルート小松にて第7回緩和医療懇話会が開催されました。在宅緩和ケア「～それぞれの立場から～」のテーマで(法)泉之杉会 にしかわクリニック院長西川忠之先生、石川県薬剤師会小松能美支部薬剤師 和田成之先生、石川県薬剤師会加賀支部 宮河哲夫先生の日頃の取り組みについて講演がありました。西川先生は、にしかわクリニックでの在宅療養で末期患者さんの症例や他種職との協働、がん在宅療法の場合についてなどの講演でした。



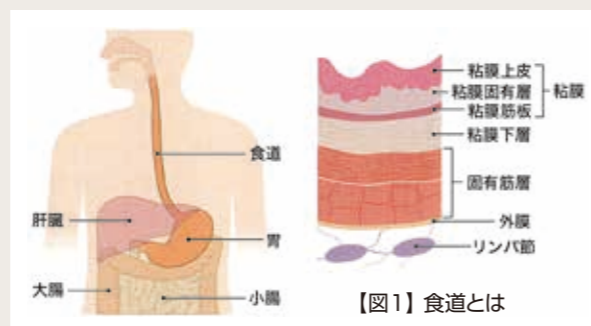
和田成之先生は院外麻薬処方箋、モルヒネ鎮痛薬について、宮河哲夫先生は「かかりつけ薬局」の推奨について、薬剤師の在宅緩和ケアへの参加についてなどの講演でした。その後会場と意見交換をしました。



食道がんについて

食道とは(図1)

食道は咽頭と胃の間をつなぐ長さは25cmくらいで、直径は約2~3cmの管のような臓器です。背骨の前面やや左側において、気管、心臓、大動脈、肺などの重要な臓器に囲まれています。その壁は粘膜、粘膜下層、固有筋層、外膜の4層構造からなっています。



【図1】食道とは

食道がんの頻度と原因

食道がんは男性に多く、女性の6倍の発生頻度です。60歳代に多くみられ、飲酒と喫煙の嗜好のある方に高頻度に認められます。また咽頭、喉頭、舌などのがんと重複することがあります。

食道がんの発生と進行

食道がんのほとんどが扁平上皮がんです。食道がんのうち、深さが粘膜下層までのものを、「表在がん」と呼び、リンパ節転移のない表在がんは治りやすいため、早期食道がんといえます。がんは進行すると、食道壁を貫き、気管、大動脈、肺、心臓といった周囲の臓器に直接入り込んでいきます。また、がん細胞はリンパ管や血管に入り込み「転移」を起こします。リンパ液の流れに乗ってリンパ節転移を生じたり、血液の流れに乗って肺、肝臓、骨などに転移します。

食道がんの症状

食道がんの初期症状は、軽度つかえ感、食道異物感、しみる感じです。がんが進行すると、痛みもひどくなり、食べ物が全く通らなくなります。このような食道特有な症状のほかに、声のかすれ、体重減少、頸部リンパ節の腫れが出現することもあります。

食道がんの診断

まずX線検査と内視鏡検査が行なわれ、病変の大きさや位置を把握します。内視鏡検査では生検を行い、がん細胞の有無を顕微鏡で調べます。その後、胸部CTやMRIで、がんの周囲への広がりや、リンパ節、肺、肝、骨などへの転移の有無を調べます。最近では、PET検査で転移を調べることもあります。

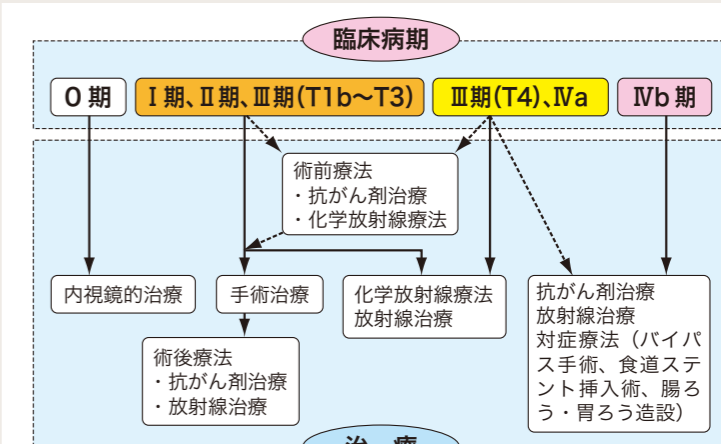
食道がんの病期(がんの進行状況)

食道がんではがんの深さ、リンパ節転移あるいは臓器転移の有無で病期が決まります。

0期	I期	II期	III期	IV期
きわめて初期で、がんは粘膜上皮の中に止まっています。	がんは粘膜下層より浅い層に止まっており、しかもリンパ節やほかの臓器に転移はありません。	がんは固有筋層よりは深いものの周囲臓器にはまだ浸潤がなく、リンパ節転移も臓器転移もありません。あるいは、がんの深さが粘膜固有層から固有筋層の間であっても近くのリンパ節に転移があります。	がんは固有筋層をすでに貫いてはいますが周囲臓器にはまだ浸潤がなく、しかも近くのリンパ節に転移があります。あるいは、周囲臓器に浸潤がある場合です。	ほかの臓器に転移があります。この場合がんの深さやリンパ節転移の有無は問われません。

食道がんの治療方法(図2)

病期に沿って治療法が決定されます。



【図2】食道がんの治療方法

1) 内視鏡治療(図3)

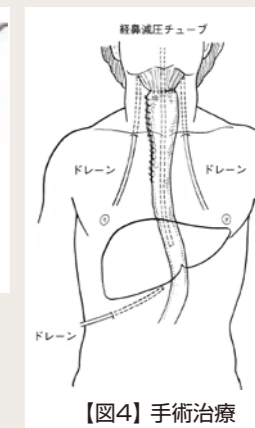
内視鏡を用いて食道の内側からがんを切り取るという治療です。深さが粘膜固有層の中層までの、リンパ節転移のない段階のがんがよい適応となります。



【図3】内視鏡治療

2) 手術治療(図4)

手術は、がんが発生した臓器と転移している可能性のあるリンパ節を一緒にとってしまう治療です。開胸をして食道を取り除き、開腹をして胃を細い管にして、頸部で吻合を行います。胸とお腹、首に傷がつき、時間も7~8時間かかる大きな手術です。最近では、胸腔鏡や腹腔鏡を用いて傷を小さくして、負担の少ない手術をすることが可能となりました。



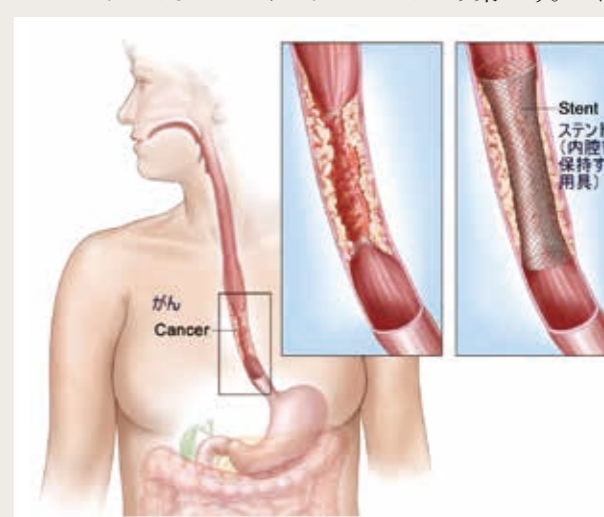
【図4】手術治療

3) 放射線治療

身体の外から放射線をかけて、がんの撲滅を目指す治療です。治療は週に5回で、6~7週間かけて行なわれます。現在は手術のできない方を中心に施行され、かなりの縮小効果を認めております。最近、放射線と抗がん剤の併用がより効果的であることがわかってきました。

4) 抗がん剤治療

現在食道がんにもっとも多く使われている抗がん剤は、シスプラチンと5-フルオロウラシルという薬です。これらを組み合わせて点滴で5日間かけて投与し、さらに3~4週毎に繰り返します。吐き気、嘔吐、食欲不振などがでやすい副作用ですが、最近はその予防薬の開発も進み、以前に比べて薬に治療を受けていただけになりました。



【図5】その他の治療

5) その他の治療(図5)

食道がんで食物が通らなくなった場合に、ステントという円筒状、網目状の金属を狭くなったところにおく方法や、がんはそのままにしておいて食物が通る道を作るバイパス手術という外科的治療があります。

がん患者・家族の集い

なごむかい

和会のご案内

- 対象：がんの患者さんと
そのご家族
- 日時：毎月 第4金曜日
13:00～15:00
- 場所：小松市民病院
南館4階研修室
- 参加費：無料
- 内容：フリートーク、
医療スタッフによる
治療・療養生活に関
するミニ講座

和会からのお願い

和会で語られる体験談は一人ひとりが、
がんという病気と闘い、頑張ってきた
姿勢です。互いの想いを認め合い、体
験談への批評は差し控えて頂きたいと
思います。

参加にあたっては会員登録が必要です

皆様のご参加をお待ちしております。

和会代表 米田 伸子・中谷 静枝

参加申し込み・お問合せ

小松市民病院 がん相談支援センター
☎(0761)22-7111 (月～金曜日 8:30～17:15)

和会からのメッセージ

和会では、がんと診断されてから
経験したことや、さまざまな想いを
話すことで、参加した方の不安やつ
らさを少しでも和らげたい。そして、
「どうすればいいの!」という想いの
手助けをしたいと思います。

ひとりで悩んでおられるなら、同
じ仲間同士、今のこころの痛みを話
し合い、癒される時間作り」を私た
ちと一緒に始めてみませんか?

和会参加者の体験談

● 「生きる力をありがとう」 氏名 K.Y

術後8年、今私は元気に生活しております。
振り返れば告知を受けた当時は、ガン=死。それが私の
ガンに対する知識でした。
術後、不安をかかえながら通院するわけですが、治療を
続けていくなかで、主治医の言葉を一語一句聞きもらさ
ぬように、又家に帰ってからも自分なりに解釈をして少
しづつ生への希望が持てたように思います。(中略)
患者の会、和会にも入会し、助けられました。同じ境遇
だと知らない人同士でも気持ちが通じ、教えてもらうこ
とが多いものです。
生き方を話し合う場所でもあります。
一度和会に来て、自分の思いを話してみませんか。
(後略)

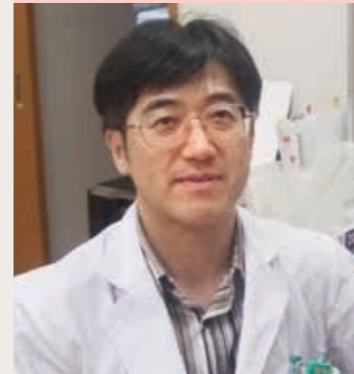
*上記体験談の全文、他の参加者の体験談は、小松市民病院ホームページや
「和会からのお知らせ」(ファイル)に掲載されています。
「和会からのお知らせ」(ファイル)は、以下に設置しています。ぜひご一読ください。
小松市民病院 がん相談支援センター
小松市民病院 外来(内科、外科、泌尿器科、産婦人科)
小松市民病院 病棟ラウンジ



連携協力医

紹介

さたけ内科クリニック



小松市若杉町3丁目30
☎48-5077

院長 佐竹 良三
診療科 内科・神経内科
診療時間 8:30～12:00
(月・金) 14:30～18:00
(火・木) 15:00～18:00
(土) 8:30～13:00
水 午後休診
休診日 日曜・祝日
旧盆・年末年始

平成18年4月に小松市若杉町に開院しました。職員は医師1名、看護師4名、事務職2名です。クリニックとして力を入れている診療内容は、専門とする神経内科の病気と生活習慣病です。特に生活習慣病では、南加賀かけはしネットワークを活用し、小松市民病院と連携を図っています。健診をあまり受けていなくて、かなり高い血糖値の糖尿病の患者さんに小松市民病院で食事療法、運動療法、薬物療法について学ぶ教育入院をしていただくと、その後の血糖コントロールがうまく進み、治療薬の量を減らせる場合があります。また、必要な方には当クリニックで栄養士による出張栄養相談を受けて頂くこともできます。健診で指摘されていても、自覚症状のない方や働き盛りで忙しい方は、なかなか受診できなかったり、ぎりぎりまで我慢してしまうこともあると思いますが、ぜひきちんと医療機関を受診して欲しいと思います。

また、当クリニックで行えない検査や緊急の患者さんの受け入れを小松市民病院にお願いしています。今後、小松市民病院に(仮)救命救急センターが設置される予定ですが、(仮)救命救急センターのベッドにも限りがあります。救急病院と後方支援病院、地域の開業医が上手く連携することで、地域の救急医療を守っていく必要があると感じています。

趣味は映画鑑賞とジムへ行って汗を流すことです。なかなかジムに足を運べないのですが…

木のぬくもりと佐竹先生の優しい笑顔があふれる、とても温かなクリニックでした。



topics

トピックス

小松市民病院総合優勝に輝く(平成23年8月21日・日曜日) 穴水町

第16回石川県国保直営病院職員体育大会のソフトボール競技大会に、小松市民病院A・Bの2チームが参加しました。参加病院17チームが2ブロックに分かれて試合をしました。A・Bチームとも3試合を勝ち進み、決勝戦は、小松市民病院AとBの戦いとなりました。

優勝：小松市民病院A

準優勝：小松市民病院B

選手の皆さんの栄光を称えます。



●エイズ拠点病院研修●

平成23年11月22日県立中央病院HIV診療チームをお招きし「HIV感染症と医療体制について」の研修会を開催しました。事前にエイズに関するアンケート調査をとり認識の程度を確認され、その回答がありました。また研修内容には「HIV感染症は治療の進歩により慢性疾患の一つとなったが、診断の遅れが死につながる例も少なくない」「血液暴露による感染率は0.3%で標準予防策で対応する」などの知識が深まりました。

「HIV／エイズ研修会」事前アンケート結果報告

★回答で誤りが多かった項目です

Q. あなたが勤務する病院はエイズ治療の拠点病院ですか？

A. はい。エイズ治療の拠点病院です。

Q. あなたが勤務する病院はエイズ治療の担当医師がいる。

A. います。田守先生、亀田先生、川浦先生の3名です。

Q. 「HIV感染症」と「エイズ」は同じである。

A. いいえ。HIVとはヒト免疫不全ウイルスのことです。エイズとはHIV感染者で免疫が破綻し日和見感染症や癌などを発症した状態のことをいいます。

Q. スタンダードプリコーションは血液が混入していない汗、涙、尿などには適応しない。

A. いいえ。汗以外の湿性体液は感染性のある物として取り扱ってください。

Q. 感染者の血液に曝露した時には必ず抗HIV薬を服用すべきである。

A. いいえ。感染リスクに応じて服用の必要性を考えることができます。

Q. HIV感染患者は身体障害者手帳の申請はできない。

A. いいえ。継続した通院、服薬ができるように社会保障制度が整っています。

●BLS (一次救命処置) 研修●

平成23年度医療安全対策委員会では、病院内外での緊急時の対応が適切にできるように、全職員を対象にした「緊急時BLS (一次救命処置) 研修会」を実施しました。

院外のBLS、ACLSプロバイダー研修を修了した看護師を講師に、医師・看護師・医療技術職員・事務職員・委託職員など院内の様々な職員239名が参加しました。「目の前に倒れている人がいたらどうしますか？」の問いかけと指導のもと、参加者は真剣に胸骨圧迫に取り組みました。研修後の参加者のほとんどは、実際に胸骨圧迫を実践できてよかった、自信になったと答えていました。研修修了者に素敵なバッチを配布しました。どこかで倒れている人を発見した時には、是非今回の研修を生かして関わることができると期待しています。



研修終了者に配られたバッチ



ボランティアの方々のご協力 ありがとうございます。



緩和病棟夏祭り・南3病棟夏祭り

8月に二つの病棟で夏祭りを行いました。職員やボランティアの方々や南3病棟の患者さんは、浴衣姿で輪踊りをしました。魚釣りや綿菓子をつくり、夏祭りを楽しみ、味わいました。9月には緩和ケア病棟に第1合唱クラブのコーラスの歌声が響きました。また患者さん職員、ボランティアとみんな一緒に合唱しました。



美しい歌声が響くコーラス



南3病棟での輪踊り



緩和ケア病棟
さかなつり



緩和ケア病棟で輪踊りをしました



わたがしも
食べました

【池坊小松支部青年部】ボランティア活動



12月4日～10日池坊小松支部青年部が外来待合ホールを生花でクリスマスをイメージして飾ってくれました。作業中、青年部方々の軽やかな笑い声が聞かれ、楽しく生けておられました。そんな雰囲気が生け花からも感じられました。



【ふれあい文庫の会】ボランティア活動



10月にふれあい文庫の会の方々の協力もと病院の正面玄関・中庭の花の植え替えを行いました。パンジー・葉ボタンを植えました。今は寒さに一生懸命耐え、頑張っているパンジー・葉ボタンの姿を目にします。



小児科Q&A、ときどきA&Q

(誤飲、事故編 その1)

小児科部長
上野 良樹

A さっきまで翔ちゃんが持っていたブロックがないんですけど

Q どんな大きさですか？普通のレゴのブロックですか？それじゃ飲み込めないかと…

A とにかくないんです！

Q むせたとか…

A すぐに連れて行きますので診てください

Q のみこんだかもしれないものと同じ物を一応持って…

ほどなく診察室に連れてこられた翔ちゃん（1才）ニコニコ元気いっぱいです。おとなでも飲み込むのは至難のわざです。「苦しそうな様子はありませんか」「さっきは顔色が悪かったでんす。」口の中に傷もないし、プラスチックはレントゲンを撮っても写りません。大丈夫だと思うという見解も受け入れられそうになく、レントゲンを撮り気管がふさがっている様子はないこととお話します。「帰ったらもう一度さがしてみてください。」1時間ほどして、「すいません机の下に落ちていました」と電話がありました。子どもは何でも口に入れます。トイレトペーパーの芯を通るものは飲み込む可能性がありますので目安にしてください。

Q 翔ちゃんがおじいちゃんの血圧の薬を5錠も飲んでしまって、どうすればいいでしょうか

A 「残りの薬を持って、きてください。」実際はそんなに飲んでいないことが多いですが、小さい赤ちゃんは少しの量でも血圧が下がるし、睡眠剤ではふらふらになります。最近の薬はカラフルでお菓子のように見えるせいか誤飲が増えていますが、一番多いのはやはりたばこです。ニコチンは水に溶けやすく、缶ジュースなどを灰皿かわりにしたものを飲むと命にかかわることもあります。ピーナツ、灯油、電池、コインも要注意です。ピーナツや灯油は重症の肺炎を起こします。リチウム電池は胃粘膜を腐食させ、コインは食道に嵌頓すると潰瘍を作ります。ピーナツは3才ぐらいまで食べない、電池のおもちゃは使わない、春になったらあまった灯油はすぐ捨てる。こんにゃくゼリーもそうですが、気をつけていても起きるのが誤飲や事故です。逆にいうと、それを環境から排除すれば絶対に防ぐことができるのです。

編・集・後・記

平成23年があつという間に終わりました。旧年中はお世話になりました。「仕分、東日本大震災、節約、絆、」の言葉が印象深かった1年でした。今年も、小松市民病院の西側に(仮)救命救急センターが設立されます。また院内の出来事などをお伝えできるように頑張っています。本年もよろしくお願いたします。

 国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp